

Title	財務理論的フレームワークに基づくデフォルト確率の算出と社債評価方法について - 簡便且つ適切な社債評価方法を目指して -
Sub Title	
Author	岩橋孝(Iwahashi, Kou) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1488号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1488

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	太田康信研究会	学籍番号	89828103	氏名	岩橋 孝
(論文題名)					
財務理論的フレームワークに基づくデフォルト確率の算出と社債評価方法について — 簡便且つ適切な社債評価方法を目指して —					
(内容の要旨)					
<p>我が国の企業における資金調達、銀行主導で行われ、その中心は銀行融資による間接金融であった。そして、社債発行による資金調達はあくまでも銀行融資を補完する手段として用いられるに過ぎなかった。しかし、長引く平成不況のもと、メインバンク制に代表される企業金融システムは、崩壊し、間接金融中心の資金調達から直接金融である社債市場に対する注目が広がりつつある。</p> <p>ところが、我が国における社債評価は、社債発行が適債基準で規制されていた事やこれまでデフォルトした社債についても社債管理会社が一括して買い取るといった処置をしてきた事から、社債評価に対する関心が低く、近年ようやく社債評価に対する議論が始まったばかりである。</p> <p>そこで、社債評価を多くの人々が利用するためには、できるだけ簡単で且つ有効な方法を提示することが肝要であるという考えのもと、財務理論的フレームワークを用いることにより、それを達成することを試みた。</p> <p>まず、社債評価を行う上で重要となる、倒産確率(デフォルト確率)の算出モデルを構築した。デフォルトの定義を、「キャッシュベースでは、企業の将来のキャッシュインフローと保有しているキャッシュによっても将来のキャッシュアウトフローを賄いきれなくなり、金融機関が融資を打ち切った状態を指す。そして、それをアセット化した場合は、資産価値(企業価値)がある一定の負債を下回ることにより、金融機関が融資を打ち切った状態を指す。」として、その定義に基づき、デフォルト確率モデルを構築した。</p> <p>そのデフォルト確率モデルを用いて東証一部上場銘柄のデフォルト確率を算出した結果、デフォルトした企業のデフォルト確率が東証一部上場銘柄全体のなかでも高く表示され、有効性を示すことができた。また、格付け会社が発表する格付けよりも効果的にデフォルト確率を示すこともできた。</p> <p>次に、社債評価を行う上で重要となる、社債がデフォルトになった場合の請求額に対する支払いの割合(回収率)の算出を試みた。これについては、同じ企業が発行した債券において、弁済率が全く異なっている場合があり、財務理論的フレームワークだけでは評価できず、社債そのものの発行条件を個別に調べるのが重要となってくるのがわかった。</p> <p>今回提示した財務理論的フレームワークに基づいた社債評価手法は、回収率の算出の点で改善の余地はあるものの、効果的で利便性の高いデフォルト確率モデルを構築することが出来た点では、評価でき、本論文の目的はおおよそ達成されたものと考えられる。</p>					